

令和２年 １１月市長定例記者会見

日 時：令和２年１１月２日（月） 午後２時～

場 所：射水市役所会議室４０１

報道出席者：北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、読売新聞、北日本放送、
富山テレビ放送、庄東タイムス、ホットライン KOSUGI

当局出席者：市長、企画管理部長、財務管理部長、未来創造課長、
商工企業立地課長、地域振興・文化課長、生涯学習・スポーツ課長

○質疑応答の概要

Ｑ１． 知事選について、得票と投票率についての考えを伺いたい。

Ａ１． 投票率は射水市内で６２．５６パーセントという非常に高い数字となった。連日報道などで知事選の状況が報じられるなど、有権者の関心が非常に高いというのは想定していたが、ここまで高くなったのには驚いた。前回から比べると投票率が大きく上がり、立山町で３０パーセント増え、富山市・射水市でも大きく伸びた。特に富山市内での大きな盛り上がりの影響を隣接している射水市でも受けた部分もあると捉えている。特に今回は期日前投票が前回に比べて大幅に増えた。期日前投票の制度が始まってかなり経つが、投票忘れを防ぐことへの意識もだいぶ高くなってきたことも、高い投票率につながったと捉えている。得票については、射水市内では当選された新田氏が一番多い票を獲得された。射水市内でもミニ集会の開催や後援会勧誘など精力的に様々な活動をされたこと、また県政の刷新という訴えが多く市の有権者の共感を得た結果だろうと捉えている。射水市としては、市民・県民が選んだ新しい知事である新田氏としっかり連携しながら、地域の活力ある未来に向けて力を合わせていければと考えている。

Q 2. 知事選について、今後新しい知事に理解していただきたい重要課題について伺いたい。

A 2. 現在、射水市内において、県の大規模プロジェクトが進んでいる。例えば、新庄川橋の架け替えについては、今かかっている橋の影響で堤防の高さが不足している状態である。近年、全国各地で大きな水害などが発生している状況から言っても、一刻も早くこの状態を改善しなくてはならない。多額の事業費がかかる大きなプロジェクトではあるが、ぜひこの事業の円滑な進捗に向けてご理解をいただきたい。そのほか、五歩一の立体交差事業などの大きな事業もあるが、それらについてもご理解を求めている。今後、連携を図っていくうえで念頭に置いていることは、子育て支援の充実である。射水市はこの間、「子育てや学びがもっと楽しくなるまち」というスローガンを掲げながら、子育て支援、また、学び環境の充実に努めてきた。さらなる充実につながる積極的な提案をし、連携を図っていければと考えている。また、スマートシティの取組については、現在国を挙げてソサエティ 5. 0 の実現や 5 G 環境の積極的な活用が提唱されている。こういった環境の整備やソフト的な事業についても、県と力を合わせることで、射水市内でも効果的に展開できるものについて提案などをしていければと考えている。

Q 3. 射水市合併15周年を迎えたが、地域の一体感の醸成について、また、20周年に向けての今後の課題について伺いたい。

A 3. 合併当初から一体感の醸成というのは大きな課題であったが、15年が経過した現在は、ひとつの射水市として捉えられることが多くなってきた。一方で、一体感の醸成が完全にできているかと問われると、まだまだ足りない部分もあり、そのことをしっかり念頭に置きながら、市内それぞれの地域の特色を活かし魅力・活力あるまちとして将来に向かって進んでいけるような取組を今後も展開していきたい。今後の課題としては、少子高齢化が今後さらに進んでいくことである。特にコロナ禍の影響の中で出生数の減がかなり影響を及ぼしそうな状況である。こういったことから、他の市町村では例えば小中学校の再編の議論を加速させる動きもある。射水市でも、公共施設の適正配置の方針を設定し、現在個別施設計画の策定に向けた検討を進めている。将来の人口減を克服していく取組を進めていくことはもちろん、人口減少がある程度避けられない状況である中、人口が減っていく地域の社会に適応していく環境づくり・仕組みづくりにもしっかりと取り組んでいきたい。

Q 4. 「いみずうまいもん券」第1弾の最終的な成果について伺いたい。また、「いみずうまいもん券」第2弾について、目標はあるか伺いたい。

A 4. まず第1弾は、約3万2千世帯に配布し、最終的な利用率は約33パーセント、予算ベースでは、執行率45.6パーセントであった。県外の自治体で同様な取組をされているところはもっと低い利用率のところもあり、射水市ではどうしてこのような高い数字になっているのかという問い合わせもあったと聞いている。そうしたことから、33パーセントという結果は決して低くないと考えられる。今回の第2弾についてもより多くの方に活用いただいて、市内の飲食店への支援であったり、こういった機会に射水の食の魅力を知っていただく機会にしていきたい。また、事前の告知・PRについてはかなりいろんな方にご協力いただきながら周知徹底を図った。参加店舗も、第1弾の時は89店舗だったが、今回は11月1日時点で116店舗と、前回よりかなり多くの店舗にご参加いただいた。利用率の目標は立てづらいが、少なくとも前回以上はご利用いただきたいと期待しており、少しでも多くの方にご利用いただくようお願いしたい。

Q 5. 「いみずうまいもん券」について、予算執行ベースで45.6パーセントというのは、7割くらいしか使われないという想定だったのか。

A 5. 予算ベースで執行率45.6パーセントというのは、事務費も入れての予算なので、利用されたものにプラスして印刷費などの経費も含めると利用されたのは33パーセントだが予算を執行したものについては45.6パーセントということである。決して低い利用率を設定していたわけではなく、思いとしては100パーセントお使いいただけたらと思っている。

Q 6. 小杉駅とその周辺の整備が進んでいるが、小杉駅そのものの橋上化についての考えを伺いたい。

A 6. 小杉駅周辺の魅力向上ということで、将来的な街のビジョンを作るべく、周辺の関係の方にいろんなご意見をいただきながら、策定に向けた取り組みを進めている。提案をいただいて策定ということになれば、その実現に向けて取り組んでいきたい。今は最終的な段階まで来ており、引き続き皆さんのいろんなご提案をいただきたい。あいの風とやま鉄道との連携・協力の有無など小杉駅の橋上化については、実際の構想が策定になった後お話ししたい。

Q 7. 生誕300年を迎える藤井右門について、市長の思いを伺いたい。

A 7. 藤井右門については、今まであまり知られていなかった部分もあり、その偉業をもう一度みなさんで検証しようという取り組みがされているのは、非常に心強く感じる。今後どのように藤井右門を検証し、その功績をたたえ、受け継いでいくのかについては、小杉まちづくり協議会などが中心となって様々な事業を行っている。そういった関係の方々とも連携しながら、後世につないでいけるような事業を計画していきたい。